

## 第6回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者

受賞者 キャロル・グラック Carol Gluck

現職 コロンビア大学歴史学教授(ジョージ・サンソム教授職)  
George Sansom Professor of History at Columbia University



### 授賞業績・授賞理由

キャロル・グラック教授は、日本近現代史の傑出した研究者としてアメリカ合衆国を拠点に国際的に活躍し、歴史研究を軸とした日本研究を世界に広めるとともに、その水準の向上に大きく貢献されました。

ジョン・キング・フェアバンク賞を受賞された *Japan's Modern Myths: Ideology in the Late Meiji Period* (プリンストン大学出版局、1985年) は、英語圏におけるオリエンタリズムのもとでの日本像を脱却し、近代国民国家のもとでの日本の展開を、膨大な資料を用いて描きだし、それまでの「特殊な国・日本」という歴史像を、世界史のなかの日本像に書き換え、日本研究を大きく転換させるものでした。

日本の20世紀史に関する国境を越えた新たな対話を生み出した共編著の *Showa: The Japan of Hirohito* (ノートン、1993年) や *Words in Motion: Toward a Global Lexicon* (デューク大学出版局、2009年) は、グラック教授の異文化間対話への深い関心と知的範囲の広さに加えて、斯界における指導力をよく示しています。

グラック教授の影響力は学界内部にとどまらず、パブリックヒストリーの分野においても多くの業績を残しています。教授が組織した公開講座やシンポジウムは日本史に関する知識を広く一般の読者と共有するのに役立ってきましたし、日本やアメリカなどの主要な報道機関におけるメディア討論に大きく貢献し、歴史論争に関する専門知識を国際的な読者と共有してきました。

グラック教授は、その長く卓越したキャリアを通じて、日本史と歴史学の分野における革新者であると同時に指導者でもあり、後進の研究者の育成にも注力し、のちに世界の日本研究分野で指導的役割を担うことになる多くの大学院生や若手研究者を指導・支援してきました。東京大学社会科学研究所や同法学部、パリ社会科学高等研究院、ライデン大学、オスロ大学など、世界各国の主要な研究機関でも客員研究員を務め、国際的なネットワークを形成しています。また、*Japan Forum*、*Japanese Studies*、*Social Science Japan Journal*、*Memory, Mind and Media* など数多くの学術誌の編集委員を務め、日本研究の普及に貢献しています。

以上、選考委員会は、日本、米国、その他の国々との間に知的な架け橋を築かれ、何世代にもわたる新進の日本研究者にインスピレーションを与えて続けてこられたキャロル・グラック教授を第6回受賞者として選んだことを、ここに喜びとともに報告します。

## 学歴・学位・職歴

### (学歴)

- 1962年6月 ウェズリー大学哲学科優等卒業  
(1960年9月-1961年7月 ドイツ ミュンヘン大学哲学科留学)
- 1970年6月 コロンビア大学日本歴史学修士号修得
- 1977年6月 コロンビア大学日本歴史学博士号修得  
(1972年1月-1974年1月 東京大学法学部外国人研究生)

### (学位)

- 1962年 ウェズリー大学 B.A.
- 1970年 コロンビア大学 日本歴史学修士号
- 1977年 コロンビア大学 日本歴史学博士号

### (職歴)

- 1974年1月 コロンビア大学東洋学部日本史講師
- 1975年7月 コロンビア大学歴史学助教授  
(歴史学部、東アジア言語文化学部、東アジア研究所併任)
- 1977年7月-1987年6月 コロンビア大学東アジア学科長
- 1983年7月 コロンビア大学歴史学准教授  
(歴史学部、東アジア言語文化学部、東アジア研究所併任)
- 1986年7月 コロンビア大学歴史学教授  
(歴史学部、東アジア言語文化学部、東アジア研究所併任)
- 1988年7月 コロンビア大学歴史学部ジョージ・サンソム歴史学教授職  
(歴史学部、東アジア言語文化学部、東アジア研究所併任) 現在に至る。

上記のほか、

ベネチア大学客員教授、ハーバード大学客員教授、パリ社会科学高等研究院客員教授、東北大学統合日本学センター特任教授、東京大学法学部客員研究員、東京大学社会科学研究所客員教授、東京外国語大学客員教授、武漢大学客員教授、スタンフォード大学行動科学高等研究所特別研究員も歴任。

## 主要著書等

- 1985年 *Japan's Modern Myths: Ideology in the Late Meiji Period*. Carol Gluck, Princeton: Princeton University Press.
- 1993年 *Showa: The Japan of Hirohito*. Carol Gluck and Stephen R. Graubard, eds. New York: W.W. Norton.
- 1997年 *Asia in Western and World History*. Carol Gluck and Ainslie Embree, eds. New York: M.E. Sharpe
- 2003年 「二十世紀のかたり」 『日本はどこへ行くのか (日本の歴史 25)』 キャロル・グラック, 姜尚中, スズキ, テッサ・モーリス, 比屋根照夫, 岩崎奈緒子, タカシ・フジタニ, ハリー・ハルトゥーニアン 共編 講談社 東京
- 2003年 『日米関係からの自立』 キャロル・グラック, 和田春樹, 姜尚中共著 藤原書店 東京
- 2007年 『歴史で考える』 キャロル・グラック, 梅崎透訳 岩波書店 東京
- 2009年 *Words in Motion: Toward a Global Lexicon*. Carol Gluck and Anna Lowenhaupt Tsing, eds. Durham: Duke University Press.

2016年 『思想史としての現代日本』 キャロル・グラック, 五十嵐暁郎 共編 岩波書店 東京

2019年 『戦争の記憶 コロンビア大学特別講義 学生との対話』 キャロル・グラック, 講談社 東京

## 受賞歴

1982年 マーク・ファン・ドーレン賞 (教授賞), コロンビア大学 (US)

1986年 ジョン・キング・フェアバンク賞 (1800年以降の東アジア史最優秀著作賞, 受賞作 *Japan's Modern Myths*), アメリカ歴史学会 (US)

1987年 ライオネル・トリリング賞 (最優秀著作賞, 受賞作同上, コロンビア大学 (US))

1989年 最優秀教授賞, コロンビア大学同窓会 (US)

1993年 特別栄誉賞, ウェルズリー大学 (US)

1995年 米国芸術科学アカデミー, フェロー (US)

2002年 特別優秀学者賞, フルブライト・プログラム 50周年記念, 日米教育委員会 (日本)

2006年 旭日中綬章, 日本政府 (日本)

2013年 教員指導賞, コロンビア大学 (US)

2014年 クレベリンハ教授, ライデン大学 (Netherlands)